

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【学校から】◎児童の尊重では、昨年と比較して保護者・教職員に大きな差異は見られないが、児童の4の評価が6%上昇している。一方、1の評価をしている児童の存在を深く受け止め、さらに一人一人を大切にしたい指導・対応を行っていく。◎仲良くしている児童の評価(3・4)は99%で、昨年いた1の評価は0となった。◎心の教育の充実では、96%(3・4)の保護者に評価され、昨年度より高くなっている。さらに道徳や心かがやけ月間の取り組みなど、充実させていきたい。		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
【学校から】◎「学習態度」においては、児童の評価においては昨年度と大差はないが、保護者、教職員とも「3」「4」の評価が高まっている。特に教職員の「4」の評価の伸びと「2」の評価がないことが今年度の特徴である。◎「授業作り」に関しても、昨年は児童・教職員の評価(意識)の乖離がみられたが、本年度はほぼその差がなく、加えて「1」の評価が児童の中にわずかに見られるばかりとなった。「わかる授業」づくりの実践が児童たちに浸透し、授業に対する意欲の高まりから「わかる」から「楽しい」とつながっていると思われる。◎昨年度の研究発表を活かしながら更に研究を進めている。機器操作に個人差がみられるようになり、苦手意識を持つ児童がみられるようになってきた。基本に立ち戻り丁寧な指導を心がけていきたい。「2」の割合は大きく減っているもの、それでも勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在するということを謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向けていきたい。		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
子どもは、好き嫌いの食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。
【学校から】◎コロナ禍による影響からか、児童の「1」の評価が増加している。保護者、教職員は「3」「4」の評価が増加しているのと対照的である。大人は少しでも子ども達が運動ができるように気をつけているが、児童の運動できないストレスが表れてきているのかもしれない。コロナ禍でもできる運動や健康づくりに関して、しっかりと吟味し、新しい生活様式の中の健康づくりに取り組んでいきたい。

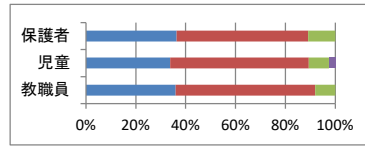
①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	②特別支援教育の推進												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">8 児童生徒理解</th> <th style="width: 33%;">9 いじめや問題への対応</th> <th style="width: 33%;">10 学校の支援体制</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。 </td> <td style="vertical-align: top;"> 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。 </td> <td style="vertical-align: top;"> 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 【学校から】◎児童理解では、児童の「4」の評価が大きく増加したことで、「1」「2」の評価が大きく減少したことが一番の変容である。また、教職員の「2」の評価がなくなったことから教師と児童の関係性がさらに良好となってきていることがうかがわれる。◎いじめ問題への対応について保護者と児童の中に「1」「2」の評価があることを真摯に受け止め、これからの生徒指導や保護者への説明責任の在り方を見直す必要がある。◎支援を要する児童に対して、保護者から「1」「2」の評価があることも深刻に受け止める必要がある。良好な関係に甘んずることなく、「心のアンケート」(いじめアンケート)に限らず、日々の関りの中から児童や保護者の困り感に敏感に気づく教職員集団を目指さなければならない。 </td> </tr> </table>	8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制	先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。	学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。				【学校から】◎児童理解では、児童の「4」の評価が大きく増加したことで、「1」「2」の評価が大きく減少したことが一番の変容である。また、教職員の「2」の評価がなくなったことから教師と児童の関係性がさらに良好となってきていることがうかがわれる。◎いじめ問題への対応について保護者と児童の中に「1」「2」の評価があることを真摯に受け止め、これからの生徒指導や保護者への説明責任の在り方を見直す必要がある。◎支援を要する児童に対して、保護者から「1」「2」の評価があることも深刻に受け止める必要がある。良好な関係に甘んずることなく、「心のアンケート」(いじめアンケート)に限らず、日々の関りの中から児童や保護者の困り感に敏感に気づく教職員集団を目指さなければならない。			
8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制											
先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。	学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。											
【学校から】◎児童理解では、児童の「4」の評価が大きく増加したことで、「1」「2」の評価が大きく減少したことが一番の変容である。また、教職員の「2」の評価がなくなったことから教師と児童の関係性がさらに良好となってきていることがうかがわれる。◎いじめ問題への対応について保護者と児童の中に「1」「2」の評価があることを真摯に受け止め、これからの生徒指導や保護者への説明責任の在り方を見直す必要がある。◎支援を要する児童に対して、保護者から「1」「2」の評価があることも深刻に受け止める必要がある。良好な関係に甘んずることなく、「心のアンケート」(いじめアンケート)に限らず、日々の関りの中から児童や保護者の困り感に敏感に気づく教職員集団を目指さなければならない。													

①子どもたちの身近な安全対策の充実	②最適な学習環境の整備								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">11 安全と事故防止</th> <th style="width: 33%;">12 施設・設備の安全管理</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。 </td> <td style="vertical-align: top;"> 学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> </td> <td style="text-align: center;"> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 【学校から】◎毎月の施設安全点検を念入りに行うと共に、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返し、子どもの事故防止に努めている。また、コロナ禍ではあるが避難訓練を計画的に行い、緊急時に素早く安全が確保できるよう努めている。今後も安全点検・安全教育に努めたい。 【学校から】◎毎月全職員で安全点検を行っている。危険箇所等があれば職員による補修や業者による修理を必ず行っている。大がかりなものについては、しばらく使用できないこともあり、児童には少し不便な思いを強いている面もある。 </td> </tr> </table>	11 安全と事故防止	12 施設・設備の安全管理	学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。			【学校から】◎毎月の施設安全点検を念入りに行うと共に、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返し、子どもの事故防止に努めている。また、コロナ禍ではあるが避難訓練を計画的に行い、緊急時に素早く安全が確保できるよう努めている。今後も安全点検・安全教育に努めたい。 【学校から】◎毎月全職員で安全点検を行っている。危険箇所等があれば職員による補修や業者による修理を必ず行っている。大がかりなものについては、しばらく使用できないこともあり、児童には少し不便な思いを強いている面もある。		
11 安全と事故防止	12 施設・設備の安全管理								
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。								
【学校から】◎毎月の施設安全点検を念入りに行うと共に、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返し、子どもの事故防止に努めている。また、コロナ禍ではあるが避難訓練を計画的に行い、緊急時に素早く安全が確保できるよう努めている。今後も安全点検・安全教育に努めたい。 【学校から】◎毎月全職員で安全点検を行っている。危険箇所等があれば職員による補修や業者による修理を必ず行っている。大がかりなものについては、しばらく使用できないこともあり、児童には少し不便な思いを強いている面もある。									

③家庭・地域社会との連携強化

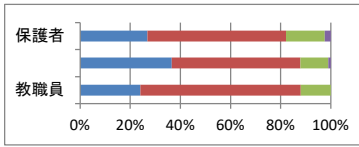
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

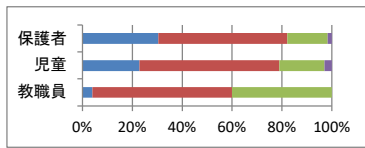


【学校から】◎学校から保護者へは、校長をはじめ、学校だより、学級・学年通信、懇談会などを活用し、事あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式などで伝えてきた。保護者の「3」「4」の割合が昨年より伸びている。◎児童の安心安全のために「スクールガード（見守り隊）」は不審者・交通安全・地域連携の点で、教育活動に大変功を奏している。コロナ禍で児童とのコミュニケーションもなかなか取りづらいうもあったが、子どもたちは安心して登下校できることに大変感謝している。「1」「2」の意見もわずかだが見られる。「不十分な部分」について分析し、保護者への啓発・児童への指導を行っていききたい。

⑧本校の教育

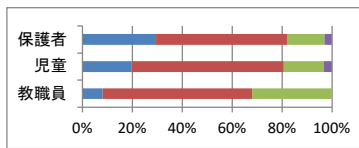
15 1「自分から笑顔で」あいさつ

子どもは、先生や友達、地域の人に「自分から笑顔で」あいさつができていますか。



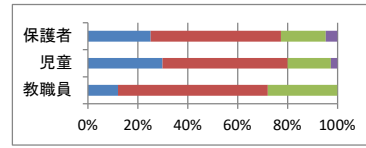
16 2「話をしっかり聴く」

子どもは、学年に応じて「話をしっかり聴く」ことができていますか。



17 3学校生活の中で「時間を守る」

子どもは、学校生活の中で「時間を守る」ことができていますか。



【学校から】◎80%近くの保護者、児童が挨拶が良い「3」「4」と評価し、教職員は60%の評価であった。また、「話を聴く」でも保護者、児童の80%に対して教職員は70%ほどである。教職員として高い理想に向かって、さらに伸びる児童であるという意識をがあり、教職員全員の共通実践を通して子どもたちを指導していきたいと考える。◎「1」の評価については、一部の児童の中には、集団生活の基本である「時間を守る」という意識を見失ってしまう場面があるのかもしれない。「時間を守る」ということは生活習慣であるから、家庭と連携しながら根気強く指導していかねばならないと考える。

来年度の具体的な取り組みについて

- ◎教育目標方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。コロナ禍の中、ホームページや安心安全メールなどのツールを活用し、充実を図る。
- ◎児童一人一人を大切に指導や対応は、日記やきずなアンケート、スマイルタイムなどを継続して行い、行動として表面に現れる現象だけでなく、児童の気持ちに寄り添うよう努めていく。さらに、スクールカウンセラーや心のサポート相談員と連携を密にし、児童や保護者の悩みや困りにタイムリーに対応していく。
- ◎昨年度の研究発表を土台にして、さらにICTの活用と教材研究を充実させて、児童が主体的に学びに向かうような授業づくりに取り組んできた。その成果を「龍西モデル」として発信しながら、さらに進化を深めていきたい。
- ◎熊本市学力調査の結果から本校児童の学力を分析し、一人一人のニーズに即したよりきめ細かな指導の工夫改善に努めていく。また、家庭との連携を密にして、個に応じた学習の支援や基礎基本の徹底を行う。
- ◎本年度はコロナ禍の中、地域との交流が厳しい状況であった。その中でもスクールガードの取組が、地域ぐるみの子育てに繋がっており、児童の挨拶や生活規範の確立に功を奏している。次年度は、コロナ禍の中でも、感染防止対策を可能な限り行い、地域・外部との交流や活用をさらに進めて、龍田西の特色ある学校づくりを進めていきたい。

学校関係者評価

- 本年度は、コロナ禍の中多くの行事等が取り止め、縮小などの変更に見舞われたが、全体的に落ち着いた学校生活を送っていると感じる。
- 授業中の立ち歩きがないか心配していたが、どの学年も集中して授業を受けている様子に感心した。
- 挨拶運動で校区に立つ機会があったが、元気に挨拶してくれる児童が多く感心している。
- 一人1台タブレットの時代になり家に持って帰るようになった。大人より子どもの方が習得は早いようだ。家庭（保護者）でも使い方をしっかり見ていくことが必要になってきた。
- ICTをよく活用されている。わかる授業につながってよいと思う。
- 地域活動やPTA活動に協力的な校区で地域の方や保護者の方々には感謝している。
- 登下校の様子であるが、3、4人の集団でマスクをしていない場面に出会うことがある。学校でも指導してあると思うが、さらに指導を続けてほしい。
- インターネットの怖さを知らない子どもがいるのではないかと心配している。いじめもネットの世界で多く発生しているようである。PTAでも北区の研修会を開催しているが、保護者の関心が少ないのが残念である。
- ネットに頼りすぎて、対面で話ができないなど、コミュニケーション力の低下を危惧している。